

平成 27 年度第 2 回環境審議会

議 事 録

平成 27 年 11 月 4 日 (水)
足立区役所 12 階 1205 - A 会議室

(開催概要)

平成 27 年度第 2 回環境審議会

| | | | |
|-----------|---|--------|--------|
| 会 議 名 | 平成 27 年度第 2 回環境審議会 | | |
| 開 催 年 月 日 | 平成 27 年 11 月 4 日 (水) | | |
| 開 催 場 所 | 足立区役所南館 1205 - A | | |
| 開 催 時 間 | 午後 2 時から午後 3 時 30 分まで | | |
| 出 席 状 況 | 委員現在数 15 人 出席委員数 13 人 | | |
| 出 席 委 員 | 田中 充 | 百田 真史 | 藤沼 壮次 |
| | ぬかが 和子 | 小泉 ひろし | 大竹 さよこ |
| | 戸苅 健作 | 小泉 俊夫 | 茂木 福美 |
| | 田邊 治代 | 長谷川 京子 | 古地 八重子 |
| | 石川 義夫 | | |
| 事 務 局 | 環境部長、環境政策課長、ごみ減量推進課長 足立清掃事務所長、生活環境保全課長 | | |
| 会 議 次 第 | 別紙のとおり | | |
| 会議に付した議題 | 1 審議事項 第三次足立区環境基本計画について 2 報告事項 報告 1 第二次足立区環境基本計画改定版の平成 26 年度実績報告について 報告 2 平成 27 年度環境基金助成交付団体の決定 について 報告 3 「エコプロダクツ 2015」への出展について | | |

(会議経過と議事の要旨)

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>定刻になったので、平成 27 年度第 2 回足立区環境審議会を開催する。本来ならば会長が進行を務めるところだが、委員の改選があったので、会長が決まるまで事務局が進行する。</p> <p>まず、今回改選された委員に、足立区長から委嘱状を交付する。 (委嘱状交付)</p> <p>次に、足立区環境基本条例の規定に基づき、区長から当審議会に諮問がある。</p> |
| 区 長 | <p>足立区環境基本条例第 24 条第 2 項の規定に基づき、第三次足立区環境基本計画について諮問する。 (諮問書を手渡す)</p> |
| 事務局 | <p>区長から挨拶を申し上げる。</p> |
| 区 長 | <p>足立区第三次基本計画を本日からこのメンバーで皆様方に審議していただく。それぞれの立場で審議をお願いしたい。</p> <p>本日の出席にあたり、第二次基本計画を読み返した。時代に即して幅広く過不足なく様々な観点から書かれているが、一つだけ気になる点がある。例えば一区民として基本計画を読むと、「私は何を行えばよいのか。」端的に「これだけ願います。」というところが分かりづらく感じる。</p> <p>同じ区民といっても、個人の場合、商店街の方々、企業の方々、家族を持つ方、独身の方、町会等の方々と様々な個人がある。それぞれの役割を果たしながら次のステージに向かい、足立区が地球にやさしいひとのまちになってほしい。</p> <p>足立区は、23 区の中で高齢化率が 2 番目に高い。良い意味で言えば成熟した人口構造の中で足立区が環境政策に対して、どのような箇所に重点を置き進めていくか。それを抜きに実践的な環境政策は語れない。</p> <p>環境の視点だけでなく、足立区全体を見通したときに環境がどのようにあるべきか。環境対策がどのようにあるべきか。広い視点に立って議論していただく。大いに期待している。</p> <p>足立区の憲法ともいえる基本構想が来年をめどに作成される。基</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>本計画はその中の環境面の施策である。整合性を図りつつ、委員の皆様が幅広い見地から議論していただきたい。</p> <p>期待して答申を待つので、よろしくをお願いしたい。</p> |
| 事務局 | <p>恐縮だが、区長は次の予定があるため、退席させていただく。 (区長退席)</p> <p>委員の改選があったため、皆様に簡単な自己紹介をお願いする。 (委員自己紹介)</p> <p>続いて事務局を紹介する。 (事務局紹介)</p> <p>次に、本日の委員数を報告する。委員定数 15 名、出席委員 13 名であり、本日の審議会が成立していることを報告する。 続いて会長の選任に進む。環境審議会規則では、「学識経験者の中から委員の推薦により会長を定める」と規定されている。</p> |
| 委員 | <p>田中委員に会長をお願いしたい。</p> |
| 事務局 | <p>田中委員の声があった。いかがか。 (拍手)</p> <p>会長は田中委員に決定する。田中会長から一言お願いする。</p> |
| 会長 | <p>皆様の推挙により会長を務める。</p> <p>先ほども区長から話があったとおり、第三次環境基本計画の策定が当面の課題になる。区長の話で熱い想いが二つあった。一つは区民に分かりやすくする。区民、事業者の皆様が「自分たちは何を行えばよいか。」を受けとめられるような計画にしていっていただきたい。</p> <p>もうひとつは高齢化社会への対応である。環境との関わりについて色を出していただきたい。以上の2点の要請があった。そこを含めて、新しい時代の足立区の環境づくりについて皆様と知恵を出し合いながら進めていくので、ご協力をお願いする。</p> |
| 事務局 | <p>この後の進行は田中会長にお願いする。</p> |

| | |
|------------|---|
| <p>会 長</p> | <p>次に副会長の選任を行う。副会長は審議会規則により、会長が指名するとなっている。私からは百田委員を副会長に指名する。いかがか。</p> <p style="text-align: center;">（拍 手）</p> <p>本日の議事録署名人は、ぬかが委員と長谷川委員にお願いする。それでは、配布資料の確認を事務局からお願いする。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>事前に送った資料は、環境審議会資料、青い表紙の第二次環境基本計画の本編と概要版、環境都市構築の調査のまとめ、環境基本計画の平成 26 年度実績報告の 5 種類である。</p> <p>次に本日、席上に配布した資料は、委員名簿、次第、正誤表、足立区環境基本条例、足立区環境審議会規則、足立の環境、エコプロダクツ 2015 のパンフレットが 2 つの全部で 8 種類である。</p> <p>正誤表は、事前に配布した資料の訂正である。お詫び申し上げます。足立の環境は、昨年度の事業についてまとめているもので、時間があるときにご覧いただきたい。</p> <p>資料の確認は以上である。</p> |
| <p>会 長</p> | <p>最初に区長から諮問があった第三次足立区環境基本計画について、事務局から説明をお願いする。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>まず、環境基本計画の概要について説明する。</p> <p>環境基本計画とは、区の環境部門に関する分野別計画で、環境基本条例第 8 条で、「区長は地域の環境を総合的かつ計画的に保全するとともに、地球環境の保全に寄与するため、足立区環境基本計画を策定しなければならない。」と策定が義務付けられている。</p> <p>環境基本計画に定める事項として、第 2 項で環境の保全に関する目標、環境の保全に関する施策体系、その他環境の保全に関する重要事項が定められている。第 3 項では、足立区環境審議会の意見を聴かなければならないことが定められており、先ほど環境審議会に諮問された。</p> <p>現行の環境基本計画は、平成 20 年 3 月に策定し、平成 25 年 4 月に中間見直しを行った。地球にやさしいひとのまちを基本方針として、6 本の柱、47 の指標で進捗管理を行っている。</p> <p>地球温暖化・エネルギー対策が 9 指標、循環型社会の構築が 4 指</p> |

標、健康・安全な暮らしの確保が7指標、人と自然の豊かなふれあいの構築が8指標、環境に配慮したまちづくりが8指標、環境を学び実践の輪を広げるが11指標である。

現行の環境基本計画の計画期間は平成27年度までだが、区の基本構想が29年度からであることを踏まえ、第三次環境基本計画も29年度を初年度とする8年間の計画とする。このため、28年度については、現在の指標等について1年間、先延ばしをする。

2ページは、新計画の基本的な考えである。現在策定作業が進められている基本構想、基本計画と合わせ、29年度から8年間の計画とする。また、昨年度に環境モデル都市に挑戦することも視野に入れて「環境都市の構築に関する調査」を実施した。現在、国が環境モデル都市の提案をストップしているが、この調査結果も計画の中に反映させていく。

第三次環境基本計画の中に、地方公共団体に策定が求められている地球温暖化対策地方公共団体実行計画、環境保全意欲の増進・環境教育・協働取組み推進の行動計画、生物多様性地域戦略の3つの計画を組み込んでいく。

現在、社会を取り巻く状況変化や新たな課題が出ている。11月末から国連気候変動枠組条約のCOP21が開催され、12月には温室効果ガス削減に向けた新たな国際的枠組みが決まる。日本のCO₂削減目標は、2030年に2013年度比26%削減という高い目標である。この削減目標は、業務、家庭部門の排出量を40%削減しなければならない非常に厳しい目標で、これをどのように実現するか、今後、計画の中で触れていく。

政府の削減目標、中長期的なエネルギー計画、エネルギーミックスとも関わってくる。気温が上がることを前提にした地球温暖化適応計画にも取り組まなければならない。

5年後に東京オリンピック・パラリンピックが開催され、東京都知事は水素社会を掲げている。足立区もどのような取り組みができるか、一つの論点になる。

人口構成が変わり、単身世帯が増えて少子高齢化が非常に進んでいることによる環境への影響も考える必要がある。社会経済システムや暮らし方を考えることも重要である。

足立区は昭和30年代から40年に建てられた集合住宅・公団が多く更新時期を迎えている。スマートシティの考え方が1つの課題になってくる。

環境分野だけではなく健康、安全、災害対策、まちづくり、福祉との連携や、持続的な社会に貢献するため環境学習、仕組みづくりが重要になっている。

計画策定にあたり、コンサルティング業務を委託する事業者として株式会社建設技術研究所を選定した。様々なデータ分析や議論を進め、計画策定を支援していただく。

3ページは現時点で想定する今後のスケジュールである。次回の環境審議会で詳細のスケジュールを出す予定で、今年度は1月と3月の2回、来年度に6回程度の審議会を開催する予定である。

来年の8月頃までに計画の骨格を決め、パブリックコメントを踏まえて、修正を加える。再来年の1月に計画案として最終的に答申と理解していただきたい。

4ページ以降は、CO₂排出量やごみなどの現在の足立区の状況の参考資料である。6月の第1回審議会のときに報告しているが、委員改選もあったので、復習も兼ねて説明する。

足立区の2012年度の温室効果ガス排出量は、京都議定書の1990年度に比べて7.6%減である。しかし、2012年は2011年度に比べれば5.9%増えている。これは、東日本大震災の後、原発等が止まり、発電のための二酸化炭素の排出が増えたことが主な要因である。

足立区の温室効果ガスの排出量を部門別にみると、産業部門では56.7%減であるが、家庭、業務部門では40%近く増えている。運輸部門は25.1%減で、自動車は減り、鉄道が増えている。部門別の内訳を円グラフで掲載した。

製造業の減少要因は、工場移転や産業構造の変化と考えられ、製造品出荷額が60.3%も減少している。家庭部門でCO₂排出量が39.3%も増えているが、世帯数が42.6%も増加している影響と考えている。世帯あたりのエネルギーについては、26.4%減少していることから、世帯あたりの人数が減っていることがうかがえる。ただ、冷蔵庫・エアコンは単身世帯でも必ずあるので、少人数の世帯が増えることは、よりCO₂排出を増加させることにつながる。

次は業務部門である。足立区では、工場移転後に業務部門が入ることが多く、大きな商業施設など業務の延床面積が30%も増えている。単位当たりのエネルギーの排出は12%減っているのに、省エネ設備、機器等も入っていると考えられるが、延床面積が増えたことが増加の主な原因である。

7 ページでは足立区の排出量を周辺の区と比較している。足立区のCO₂排出は 256.3 万 t でほぼ江戸川区と同じである。部門別では、足立区の自動車のCO₂排出が他の区に比べて多くなっている。足立区は、自動車保有台数が非常に多く、自動車のCO₂排出量が都内で1番多い。家庭部門の排出量を比較すると葛飾区・江戸川区とほぼ同じで、1人あたり1,445 kgとなる。

自動車部門の排出量は、東京都で調査した道路交通量をもとに算定している。首都高速、環七、国道4号があり、交通量が多いため排出量が多い。面積あたりで比較しても江戸川区に次いで2番目に自動車のCO₂排出が多くなっている。

続いて足立区内のエネルギー使用量の状況を説明する。電気使用量データは東京電力株式会社の提供であり、東京電力以外の事業者のデータは含まれていない。平成22年度比で10%削減するという目標に対して12.7%削減しており、目標値を達成している。

都市ガスは、東京ガス株式会社の提供データで、平成22年度比2%削減の目標に対し2.9%削減と目標を達成している。

9 ページはごみ量の推移である。1990 年を100 とすると、現在は75 を切っており、順調に減量されている。9 ページのごみの中身、一人が一日に出すごみの量、経費については、東京二十三区清掃一部事務組合23区全体のデータで、足立区のデータとは若干違うが、区民1人あたりが1日に出すごみの量は857g、ごみ1トンあたりの費用は55,529円である。

10 ページは、ごみ収集の23区比較である。

関連して、報告事項の1、11 ページ、平成26年度の足立区環境基本計画実績報告について説明する。

47の指標のうち既に目標を達成している指標は46%の20個、着実に目標達成に向かっている指標が7個の16%、目標に近づいているが取り組みの強化が必要な指標が11個の26%、数値が目標に近づいていない指標が5個の12%、その他経年の変化を把握するための参考数値が4個ある。

実績報告の14ページから47の指標を掲載し、26年度の評価をスマイルマークで評価している。一番上の区内の年間電力使用量、都市ガスについてもクリアしているので、Sの評価になっている。

CO₂排出量と公共施設CO₂排出量については、排出係数により変わってくるため、参考数値として出している。

ごみ処理量についてはA評価で着実に減っているが、目標には到

| | |
|-----|--|
| | <p>達していない。このように各柱にすべての指標が出ているので、後ほどご覧いただきたい。</p> <p>その他の主な指標として大気中のダイオキシン類の環境保全事業は100%である。引き続き100%維持を目指す。</p> <p>区内8河川中7河川が環境基準に適合している。圀川の1箇所の排水場で高くなっているため、環境基準を満たしていない。</p> <p>緑視率は交差点で周りの写真を撮り、緑はどれほどあるか調査する指標で、15.8%の目標に対し、実績は15.1%で若干足りない。</p> <p>身近な環境配慮行動を行う人が10万人を超えることを目指す目標は、様々なイベントに参加した方などを積み上げるもので、96,395人で若干足りない。努力をして目標達成を目指す。</p> <p>以上、足立区の現状等について報告した。</p> |
| 会 長 | <p>審議会資料の1ページから11ページと、足立区環境基本計画平成26年度実績報告について説明があった。</p> <p>説明内容は、環境基本計画の策定をどのような手順で進めていくのかと、現状報告として、足立区の温室効果ガス・ごみの排出量を紹介し、あわせて、環境基本計画の平成26年度の実績を説明した。47指標の中にはすでに順調に目標を達成したものもあり、目標達成に向かっているものもあり、それを数値・記号で分けて示している。</p> <p>ご意見、ご質問があれば伺う。</p> |
| 委 員 | <p>私が住む場所は集合住宅で、高齢化が進んでいる。中川沿いに新しい遊歩道が完成し、朝晩、お年寄りが歩いていて、健康につながっている。しかし、年をとればいろいろと出かけることが大変である。私は地域のボランティア活動を行っているので、この場で勉強したものを地域の皆様に広めていきたい。</p> <p>すでに環境学習をたくさん行っているが、地域の老人を含めて、老人の為に皆で学びあう場を設けていく。</p> |
| 会 長 | <p>身近な環境づくり、特に高齢者が多くなっているため、高齢者向けの環境学習の機会を考えていくとの話であった。</p> <p>その他にはいかがか。</p> |
| 委 員 | <p>現行の環境基本計画は27年度までだが、基本構想、基本計画と</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>整合するため、現行計画を1年延ばして29年度からとする。 今度策定する環境基本計画は平成29年度から8年間の計画であるが、今後は基本計画とずれなく動くのか。</p> |
| 事務局 | <p>区の基本計画は、8年ごとのサイクルで行っている。環境基本計画もそれに合わせていく。</p> |
| 委員 | <p>部門別温室効果ガス排出量の廃棄物部門は、廃棄物を焼却処理した時のものか。</p> |
| 事務局 | <p>その通りである。</p> |
| 委員 | <p>区内の電気と都市ガスの使用量は、両方とも目標をクリアしている。電気は技術や効率化が進み、少ない電力量で機能する冷蔵庫などが開発されている。 しかし、ガスは火の熱を直接利用する原始的なもののため、効率化が難しいと思う。電気に比べ、ガスの効率化は難しいと思うがどうか。</p> |
| 事務局 | <p>ガスの場合は、エコジョーズという名称で潜熱回収型の給湯器が普及している。排熱をもう1度、使用して効率化する。また、ガスは気候による影響も受ける。冬が寒く水が冷たくなれば、お湯を沸かすときのガス使用量が増え、暖冬になれば減る傾向にある。ここは副会長の専門分野である。</p> |
| 委員 | <p>副会長に聞く。ガスの効率化は今後、技術的な面で進むのか。</p> |
| 副会長 | <p>今は経済産業省でコージェネレーション技術を推奨している。ガスで熱を生み出すと同時に発電し、使い勝手のよい電気を作る。家庭内で発電できるような技術も出ている。基本的に、何にでも使用できる技術は、世の中にはない。熱が必要な場所で、熱を使うためにガスを燃やすと同時に発電するので意味がある。単に電気を得るためにガスを燃やすのでは発電機になってしまいもったいない。 メリット・デメリットもあるが、そのような技術が普及しつつある。</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>26年度実績報告の中で、ごみ処理量は目標には達していないが、減少傾向にある。</p> <p>ただ、ごみ処理量といえば、簡単に言えばごみを燃やすなどごみを処理した量と表現しているように思える。区民、事業者のごみを出す方の視点で見ると、ごみ排出量という表現のほうがよく分かると思うが、それでは間違いなのか。</p> |
| 事務局 | <p>ごみ処理量は、清掃工場に持ち込まれた家庭から出たごみと区内事業者が自分たちで清掃工場に持ち込んだ量なので、ごみ処理量と表現をしている。区民、事業者にとって分かりやすい表現を考えていく。</p> <p>処理量という表現を使用しているのは、粗大ごみも含め家庭から出たごみと事業者が工場に持ち込んだごみを合わせた数字である。</p> |
| 委員 | <p>環境指標の意味では、処理量というより排出量といったほうがよい。概念として排出量とすれば環境への影響の指標としては適切であると思う。</p> |
| 会長 | <p>排出量という表現は別の概念で使っているのか。</p> |
| 事務局 | <p>家庭から出たごみは、排出量と全く同じである。排出量と置き換えても大丈夫である。しかし、産業廃棄物を含めた事業者の出すごみの中で、事業者が清掃工場に持ち込んだものが入っているため、処理量という言葉を使っている。排出量となれば、事業者が出したすべてのごみを考えなければいけない。家庭から出たごみは排出量と処理量がイコールで、燃えるごみ、燃えないごみ、粗大ごみを計算している。</p> <p>処理量は区が関わったものの数値である。区民・事業者へごみの排出に対する意識を高めるためには、見せ方の問題と説明の仕方、工夫が可能である。</p> |
| 委員 | <p>環境を良くするための指標として、どう表現するのが適切か。よく考えて決定してほしい。</p> |
| 委員 | <p>事業者としてみると処理量より排出量のほうが社員にはいいや</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>すくなる。立場の違いで言葉も違う。</p> |
| 事務局 | <p>ごみ排出の数値を把握するときの主人公が区民か、事業者なのか。一方で事業者には産廃廃棄物もある。定義を明確にして絞れば排出量という表現も使えるので、検討させていただく。</p> |
| 会長 | <p>その他はいかがか。</p> |
| 委員 | <p>これから1年間かけて新たな計画を作るのだが、私の中では強い思いがある。区長と事務局の発言と相反するものではない。</p> <p>私は基本構想の審議会委員も務めていて、その中で全ての公共施設をどうしていくのか、課題になっている。都営住宅等の建て替えも続々と行われている。</p> <p>スマートシティや、地球にやさしい建物をどのように誘導できるかは、大きなことである。計画策定も全庁的な課題であり、議論しながら、いいものを作る必要がある。</p> <p>公共建築物が相次いで更新の時期に入っているので、好機として捉えたい。ただ、区施設で環境モデルとなる建物を作るといっても、「お金がかかる」とか「担当所管で対応する」という話になる。</p> <p>これからの未来、地球にやさしいひとのまちになるために、太く突き出していく全庁的な計画を議論して作っていただく。これが1点目である。</p> <p>もう1点は細かい話だが、温室効果ガスの排出量の中にハイドロフルオロカーボンなど代替フロンがある。全体の温室効果ガスの構成比から見れば少ないが、温暖化係数が高いため、地球温暖化に与える影響が比較的大きな数字になってしまう。</p> <p>前回の環境審議会で専門の先生から「代替フロンに代わる新しい技術も生まれている。」という話も伺っている。今後も情報を提示してほしい。</p> |
| 委員 | <p>新計画の基本的な考えで、法律で地方公共団体に策定するように努めることとされている3つの計画のうち、生物多様性地域戦略について、教えてほしい。</p> |
| 事務局 | <p>私も勉強中で、皆様と一緒に勉強していく。すべての生きものは豊かな生態系、他の生きものとながって生きている。どのように</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>して植物、動物、魚と人間と一緒に共存していくか。種を絶やさず未来に残していくためにはどのようなことが必要か。自治体として何をすべきか検討していく。</p> |
| 会 長 | <p>今回の環境基本計画を、全庁的な課題として、足立の環境づくりの中心軸にしてほしいという意見があった。このことは非常に大事なことである。つまり、関連部局と連携をとり、各部局にも環境基本計画が位置づけられるようなしくみづくりを行う。庁内連携のあり方も重要である。計画策定でも、関係部局の連携、浸透に配慮してほしい。</p> <p>生物多様性地域戦略は、生物保全基本法に基づくもので、地域ごとに策定に努めることと規定されている。23区でも先行する自治体が始めていて、私が知っている中では港区がある。地域戦略を独自に別冊で作成する場合と、足立区が目指す環境基本計画の中に位置づけ、合体の形で作成する形もある。今回の足立区は合体方式で作成する。こうした方法では、課題ごとの連携がしやすくなる。</p> <p>地域戦略を平たく言えば、生き物が生存・生息する環境づくりを大事にすることである。</p> <p>他にはいかがか。</p> |
| 委 員 | <p>区長のあいさつの中で、区民が計画を見て「何を行えばよいか。」がわかるようにという話があった。前の計画を作成するときも議論になったが、見える化の問題は大事である。例えば、レジ袋を1年間使わないとCO₂何t、森林が何本分という見える化がある。</p> <p>一方で計画に基づいて区民が「こうすれば、こうなる。」といった見える化を徹底する。様々な知恵を集めながら工夫して、最後に全体で議論すればよい。他の優れた取り組みを私たちも勉強していくので、いろいろと例示してほしい。</p> |
| 会 長 | <p>区民の行動が環境にやさしいか、環境への負荷を軽減するか、分かりやすい具体的な見える化を図る。これは良い指摘なので、計画づくりに活用していく。</p> |
| 委 員 | <p>区長が「具体的に分かりやすく。」と話していた。例えばパン1切れ、ステーキ1枚を生産するとどのくらいCO₂を排出するかを数値で出す、給食の残菜率を減らせばCO₂も排出削減が可能で、ご</p> |

| | |
|-----|---|
| | <p>みも減量できるというように具体的に分かりやすくする。</p> <p>公共交通機関の利用を促進するため、車で移動した場合と、公共交通や自転車で移動した場合のCO₂排出量をわかりやすく示し、区民がチャレンジ可能なこととして、施策の中に使っていく。</p> <p>電気使用量は、東京電力提供データと説明があった。全体量からすれば、比率は低いですが、新電力の導入は進んでいる。数値についても将来、正しい数値が必要である。</p> <p>清掃工場でもごみを焼却の熱を利用して発電が行われる。電気使用量とは別に、この清掃工場の発電量を把握して、使用量から差し引かなければならないのではないのか。</p> |
| 会 長 | <p>様々な角度から区民の行動を分かりやすく数値化することは重要である。区でも環境家計簿に取り組んでいる。エネルギーやCO₂を減らすためにどのような行動ができるか、広く普及するような分かりやすいものを工夫してほしい。</p> <p>電気使用量については、来年から完全自由化される新電力の量を把握することは難しい話であるが、何らかの形でフォローしていくことが大事になる。</p> <p>足立区の清掃工場で発電された電力は、区に還元される訳ではないのか。</p> |
| 事務局 | <p>清掃工場ごとにサーマルリサイクルといって、ごみを燃やすときの熱を利用して発電を行っているが、清掃工場は東京二十三区一部清掃事務組合の施設である。発電した電気を売った分は、清掃一組売上で区には還元されない。ただ、負担金が減るという意味合いはある。発電量も把握することができる。</p> |
| 会 長 | <p>ごみ発電として有効活用するなら、ごみの排出量がエネルギーとして還元されていくと考え、何らかの扱い方法を工夫する必要がある。</p> |
| 事務局 | <p>単純に行かない部分がある。足立清掃工場は足立区だけで使っている訳ではない。ただごみの量も発電量も分かるので、今後考えていく。</p> |
| 委 員 | <p>小学校5年生のメンバーに環境問題を担当させ、小さいうちから</p> |

| | |
|----|--|
| | <p>環境問題を意識させれば、大きく意識が上がると思う。</p> <p>清掃工場に搬入されたごみの中では紙類が1番多くなっているが、私も新聞の中に入る折りこみ広告などをごみとして出していたが、審議会で資源として出すべきと知った。</p> <p>しかし、普通の区民は教わるチャンスがない。何が資源か、資源でないのか、区民は知らされる場がない。広報は見えていない人が多いし、見えていても見過ごしてしまう。区民目線で皆が分かるようにすれば、ごみ減量や資源化につながる。</p> |
| 委員 | <p>産業廃棄物を再利用できないか。例えば発泡スチロールはお金で買ってくれる。発泡スチロールは非常に多い量になるが、まとめて回収してためておく場所がない。</p> <p>きれいに分けて発泡スチロールを持ってくれば、無料やお金を出して引き取る事業者を環境展で見つけた。企業が持って来れば、お金を出して引き取る。しかしどうしても量が少ないので、我々は小さく切り刻んでごみに出して燃やしている。</p> <p>例えばきれいな発泡スチロールを区は無料で引き取って大量に集めれば埼玉県の業者が取りに来て、お金を払ってくれるので、ごみが無駄なくできる。</p> <p>ペットボトルを洗うビーンズやタワシに使われているウレタンを捨てずに、外して再利用できればごみが減る。例えば町のイベントなどで、捨てる予定のウレタンを集め、再利用する事業者に取り取ってもらうような仕組みができるとよいと思う。</p> <p>足立区異業種交流会や商工会議所のメンバーとどのような廃棄物が出て、どのように再利用できるかを話し合っ、この場に情報を持ってきたい。業務を見直し、環境に配慮した取組みを普及できる可能性もあるので、いろいろ提案してみたい。足立区の企業は小さいので、廃棄物の量が少ないが、全て集まれば大変な量になり、お金になるので、私も調べるが、区も考えてほしい。</p> |
| 会長 | <p>行政が回収するとなればコストがかかる。</p> |
| 委員 | <p>回収は必要ない。我々が持っていくので、区内に場所を確保してほしい。本来は回収する事業者のある埼玉県に持っていきたいが、足立区内であれば大した苦勞ではない。</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>非常に良い提案であるが、産業廃棄物に関しては、区の立場で可能なことと不可能なことがある。オリンピックを契機に東京都と東京の自治体の資源循環が求められている。特に事業系一般廃棄物と事業系産業廃棄物を合わせて減量していくことが大事である。どのようなことが可能か、話し合いを始めている。</p> <p>提案を参考にして、何十年先に残る資源循環の社会を作っていく。我々も情報提供を行い、事業系廃棄物の資源化を進めていく。</p> |
| 会 長 | <p>時間の都合もあるので、議題を進めていく。</p> <p>報告事項 2 と 3 をお願いする。</p> |
| 事務局 | <p>資料 12 ページは、平成 27 年度環境基金助成交付団体決定である。足立区では環境基金を活用して環境研究、活動団体に対して 1,000 万円を限度に助成している。</p> <p>27 年度については、8 件の申請があり 6 割以上の評価を受けた 6 件を助成している。来年 3 月までの活動実績に基づき、来年 4 月の環境基金審査会で成果を発表してもらい、補助金を交付する。</p> <p>次にエコプロダクツ 2015 について説明する。国内最大の環境に関する展示会で、東京ビッグサイトで 12 月 10 日から 12 月 12 日まで開かれる。オール東京 62 市区町村の共同事業として足立区はパネル展示で、環境かるた・清掃車のカーボンオフセット等を P R する。</p> <p>ステージ上では環境かるたの実践と、東京未来大学のレンジャーショーを行う。</p> <p>出展は約 700 団体で、来場者見込みは 16 万 5,000 人である。チラシを 2 種類お配りしているので、後ほどご覧いただき、時間のある方は来ていただいきたい。私からは以上である。</p> |
| 会 長 | <p>2 点の紹介があった。今までのところを含めて全体で何かあればお願いしたい。</p> <p>ないようなので、これまでとする。</p> <p>今回の環境審議会は新しい環境基本計画を策定するという課題があり、今年度後半から来年度にかけて回数も多くなる。環境基本計画の枠組み作りに向かって協力をお願いする。</p> <p>最後に事務局から次回の日程をお願いする。</p> |

| | |
|-----|--|
| 事務局 | 次回の日程は来年 1 月 15 日金曜日の午後 3 時から開催する。1 か月前に開催通知を送る。 |
| 会 長 | 以上で第 2 回環境審議会を終了する。 |

(会議録署名)

平成 27 年度第 2 回環境審議会会議録記録署名員
(平成 27 年 11 月 4 日 開催)

| | |
|------|--------|
| 会 長 | 田中 光 |
| 署名委員 | ぬかかゝ和子 |
| 署名委員 | 長谷川 奈子 |